
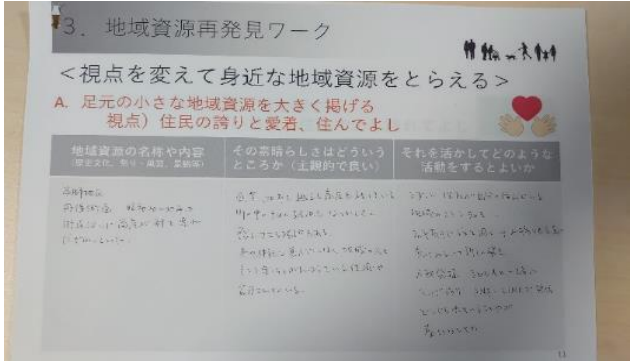


第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-①	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	多角的な若者視点による活力創生		
戦略事業名	①おい若者まちづくり塾開催事業		
予算事業名	おい若者まちづくり塾開催事業		

令和2年度実績額	1,425,684円	令和3年度予算額(6月補正後)	1,719,000円
----------	------------	-----------------	------------

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>まちづくりに興味のある住民を募り、テーマごとに議論を重ねることで、まちづくりについての意識を深めるとともに時代を担うリーダー意識を醸成する。</p> <p>「おいまちづくり塾」を2回開催 【第1回】参加9名 講師: 田中志敬氏(福井大学) タイトル: まちづくりをはじめための集落課題チェック</p> <p>【第2回】参加12名 講師: 江川誠一氏(福井大学) タイトル: 身近な地域資源を活かしたまちづくりの進め方</p>	<p>まちづくりに興味のある若者世代を募り、テーマごとに議論を重ねることで、まちづくりについての意識を深めるとともに時代を担うリーダー意識を醸成する。さらに、議論した内容を実際の行動に移せる仕組みの構築を図る。</p> <p>若者をターゲットとした講演会や未来仕掛け人のOBによる説明会を開催し、潜在的にまちづくりに興味のある若者を発掘する。また、参加者の中で未来仕掛け人(仮称)2期生を設立を目指す。</p>	/
	 		

評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	参加者数			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	累計472人		令和2年度末	619人	
	目標値(令和6年度末)	累計800人	⇒			77.3

① 数値目標達成状況 おおむね達成

<p>達成状況の要因分析、今後の方針</p> <p>KPIについて、これまでに、おい町未来仕掛け人会議や、まちづくり塾に関連した講演会等の年間10回以上の活動を通じて、まちづくりに参加する住民の数を増やしてきたことから、目標値をおおむね達成している状況である。</p> <p>なお、令和元年度をもって、未来仕掛け人会議の活動は一旦卒業というかたちをとっており、令和2年度には集落課題や地域資源の活用をテーマとした計2回のまちづくり塾(講演会)を開催し、まちづくりに関心のある町民を新たに発掘した。</p> <p>令和3年度は若者をターゲットとした講演会を開催し、潜在的な将来のまちづくりの中核を担う候補者を発掘する。また、その中から未来仕掛け人会議の第2期生を設立し、地域や集落のリーダーとなるべく人材の育成を図る。</p>	
--	--

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

<p>ノウハウの内容</p>	<p>令和2年度開催した2回のみちづくり塾(講演会)では、集落の課題に関心の高い町民に参加していただくことができた。また、その方たちが主体的にまちづくりに取り組むための資質向上を図ることができた。</p>
<p>ノウハウの活用状況・活用方針</p>	<p>これまでのまちづくり塾の受講者に対し、継続した当事業への参加を促すとともに、参加者の大半がまちづくり経験者で固定化がみられることから、参加者の拡がりをもたすことのできるよう、これまでとは違った視点でまちづくりに意識を向けていただけるような取り組みを企画する必要があると考える。</p>

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

<p> </p>

④ 事業成果

<p>平成27年度から令和元年度にかけて若者ワークショップや未来仕掛け人会議、部会、まちづくり塾を実施し、延べ数598人のまちづくりに意欲のある町民が参加した。また、未来仕掛け人会議のメンバーは、今まで培ってきたノウハウを活かし、参加者が1,000人規模のイベントとなったおおいCraftGardenのように町の補助金を活用しながら、まちづくり団体として、イベントを企画し、関係人口の創出と町の活性化に寄与している。 また、令和2年度には講演会を通じて、新たに21人のまちづくりに興味のある町民を発掘することができた。</p>

内部評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年までのおおい町未来仕掛け人会議や、令和2年度からのまちづくり塾の活動を通じて、まちづくりに参加する住民の数は増えており、KPIの達成に向けて順調 ・今後は、更なるメンバーの発掘や自主的・主体的に活動を行ってもらうための機運の醸成が重要

外部評価の結果

<p>—</p>

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-②	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	多角的な若者視点による活力創生		
戦略事業名	②まちづくり政策コンテスト開催事業		
予算事業名	官学連携事業		

令和2年度実績額	0円	令和3年度予算額(6月補正後)	4,929,000円
----------	----	-----------------	------------

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	学生に来町してもらいフィールドワーク等の住民との交流を通してまちづくりの施策を提案してもらった「まちづくり政策コンテスト」の開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大等の社会情勢を考慮し、令和2年度は中止とした。	新型コロナウイルス感染症対策のため、リモートを基本に実施する予定。6月23日に参加チームの募集を締め切ったところ、県内外の6大学から、8チームから応募が寄せられている。	/
	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; background: linear-gradient(to top right, transparent 49%, #ccc 49% 51%, #ccc 51% 53%, transparent 53%);"></div>		

評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	政策提案数		現 状	KPI達成率(%)	
	基準値 (平成30年度)	累計26件	⇒	令和2年度末 34件	48.6
	目標値 (令和6年度末)	累計70件			

① 数値目標達成状況	達成できなかった
達成状況の要因分析、今後の方針	
<p>令和6年度までの目標値を達成するために必要となる値を推計した結果、令和2年度末までに40件程度の政策提言を得る必要があり、令和2年度の事業中止の影響で現状では達成が難しい状況。令和3年度は、リモートでの開催を予定している中で8チームから応募を頂いており、学生や指導教員の方の高い関心が伺える。</p> <p>一方で、町内でのフィールドワークが無いため、町民との交流を進め政策提言の質を落とさないためのきめ細やかなサポートを実施していく。</p>	

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

ノウハウの内容	令和2年度事業中止
ノウハウの活用状況・活用方針	令和2年度事業中止

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

--

④ 事業成果

平成28年度から計4回の開催で参加した学生は約230名となり、未来創生戦略にもとづいたまちづくりを進める本町の取り組みを広く町内外にPRする機会となっている。また、学生、庁内住民グループ合わせて34件の政策提言が集まり、その中から7件が事業化につながっており、様々な視点から寄せられるアイデアが町の施策の多様化に寄与している。

内部評価結果

- ・令和2年度末までに達成すべき提言数は40件程度であり、令和2年度のコンテスト中止の影響を受けて、実績が目標値を下回っている
- ・一方で、令和3年度はリモートでの開催にも関わらず8チームの応募があり、注目度は高い施策と考えられる。フィールドワークが実施できない中でも政策提言の質を維持することが重要

外部評価の結果

- ・「まちづくり政策コンテスト」の結果が町の政策に実際にどのように活かされているのか気になる。事業化などの成果をどう効果的に発信していくのかについて検討してもらいたい
- ・リモートでの実施はしかたないとして、今後、緊急事態宣言の解除という状況もあるかと思うので、学生と交流する機会についても検討してもらいたい

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-③	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	多角的な若者視点による活力創生		
戦略事業名	③地域おこし協力隊支援事業		
予算事業名	地域おこし協力隊募集・管理事業		

令和2年度実績額	573,000円	令和3年度予算額(6月補正後)	1,098,000円
----------	----------	-----------------	------------

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>人口減少及び高齢化等が進行する本町において、町外の人材を地域おこし協力隊という形で積極的に取り込み、地域の活性化および定着・定住を図るため、協力隊募集イベントへの参加や、県等が主催する隊員向け研修会へ参加するための旅費を支給したほか、定住した隊員に報奨金を支給。</p> <p>令和2年度中に1名が新たに着任し、また、年度末に1名が期間満了で退任し、本町に定住している。</p>	<p>令和2年度末に1名が退任したため、年度当初の在籍者数は2名となっており、新たに1名の隊員募集(農林水産課)を検討している。</p>	/



評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	協力隊退任後の定住人数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	累計0人		令和2年度末	3人	
	目標値(令和6年度末)	累計6人				50.0

① 数値目標達成状況 達成

達成状況の要因分析、今後の方針

平成27年度から10名の地域おこし協力隊を受け入れてきた結果、3名の定住につながっており目標達成に向け順調に推移している。一方で、本人の希望と実際の業務とのミスマッチ、家庭の事業、自己の都合等の理由で5名が定着せずに退任している。

その対策として、採用条件や活動内容を募集時にできる限り詳細に明示し、採用後のミスマッチがおこらないように努めている他、定期的に面談して情報共有につとめ隊員が地域で孤立しないように努めている。

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

<p>ノウハウの内容</p>	<p>本人の希望と実際の業務とのミスマッチ、家庭の事情、自己の都合等の理由で5名が定着せずに退任している。また令和2年度はコロナウイルス感染症対策のため、各種イベント等が中止になる中、隊員と地域との交流の機会も減少している。</p>
<p>ノウハウの活用状況・活用方針</p>	<p>定期的に面談して情報共有につとめ、隊員が地域で孤立しないように努めている。</p>

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

<p> </p>

④ 事業成果

<p>平成27年度から延べ10名の地域おこし協力隊員を受け入れており、実際の業務とのミスマッチ、家庭の事情、自己の都合等の理由で、任期途中で退任された方がいるものの、令和2年度末時点で3名の方の定着につながっている。引き続き人材の確保を図り、地域の活性化につながるように努める。</p>

内部評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・任期満了で退任した隊員の定着率が高く、KPIの達成に向けて順調 ・新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年度～令和3年度は県内外のイベント等が減少しており、そのような中で協力隊の方に携わってもらわなければならない業務をどう確保していくかが課題

外部評価の結果

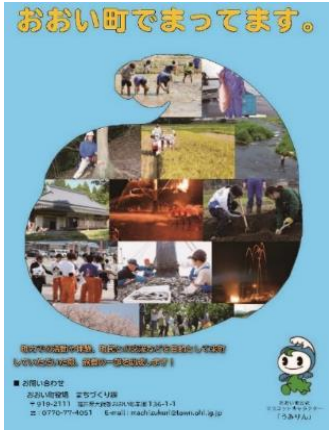
<p>—</p>

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-④	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	④ふるさと体験事業		
予算事業名	移住・定住・交流推進事業(ふるさと体験事業)		

令和2年度実績額	57,209円	令和3年度予算額(6月補正後)	607,000円
----------	---------	-----------------	----------

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>おい町に関心を持つ町外の方(おいサポーターの登録者)が本町で行う以下の活動に伴う交通費相当額を補助</p> <p>①町内で住居を兼ねた仕事場を探し ②町が指定するイベントのボランティア運営スタッフとしての活動 ③おい町一次産業体験事業への参加 ④包括連携協定を締結している大学の学生が行う、町民との交流を伴う活動</p> <p><上限額> 北海道・東北 19,000円/人 関東 13,000円/人 中部・近畿 5,000円/人 中国・四国 10,000円/人 九州 17,000円/人</p> <p>令和2年度実績 5件 18名</p>	<p>引き続き、おい町に関心を持つ町外の方が本町で行う活動等に係る交通費相当額の補助を実施する。</p>	/
			

評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	おいサポーター登録者数		現 状		KPI達成率(%)	
	基準値(平成30年度)	—	⇒	令和2年度末	67人	13.4
	目標値(令和6年度末)	500人				

① 数値目標達成状況	達成できなかった
達成状況の要因分析、今後の方針	
<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一次産業体験活動の参加者が減少しており、結果として、サポーター登録を呼びかける機会が少なく目標の達成状況が厳しい状況。 新型コロナウイルス感染症の収束した際には、これまでのまちづくり政策コンテストの参加大学等に、来町および制度の積極的な活用をPRしていく。</p>	

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

ノウハウの内容	本事業については、関西圏の学生のフィールドワークや研究活動での利用も多く、おい町を知らない都市部の若年層へのPR効果が期待できる。
ノウハウの活用状況・活用方針	今後、おい町の情報を積極的に登録者に発信していくことにより、移住やふるさと納税に繋がっていくことが期待できる。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

--	--

④ 事業成果

おい町に関心を持つ町外の方や包括連携協定を締結している大学の学生が、町内で行う1次産業体験や交流活動などについて、R2年度は5件18名に補助を行い、13名のサポーター登録に寄与した。

内部評価結果
新型コロナウイルスの感染拡大の影響で参加者が減少し、実績が目標値を下回っている。新型コロナウイルス感染症が終息したタイミングで、連携協定を締結している大学や、まちづくり政策コンテストの参加大学等に向けて制度をPRしていくことが必要

外部評価の結果
—

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-⑤	課名	農林水産課
------	-----	----	-------

戦略分類	3. 若者活力
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実
戦略事業名	⑤一次産業体験事業
予算事業名	一次産業スタート支援事業

令和2年度実績額	4,140,002円	令和3年度予算額(6月補正後)	5,293,000円
----------	------------	-----------------	------------

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要 (実績)	①一次産業活動拠点施設の管理 (実績) 日常管理 1,795,200円 消防設備点検 36,520円	①一次産業活動拠点施設の管理 (実績) 日常管理 1,834,800円 消防設備点検 35,420円	/
	②一次産業体験事業 (実績) 5人(7日間) 35,000円	②一次産業体験事業 延べ120人・日 600,000円	
	③就農総合支援事業補助 (実績) 新規就農者住宅確保支援事業補助金 (1人) 270,000円 新規就農者研修支援事業補助金 (1人) 480,000円	③就農総合支援事業補助 新規就農者住宅確保支援事業補助金 (1人) 318,000円 新規就農者研修支援事業補助金 (2人) 720,000円	



評価(Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	体験者数			現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	年間延べ190人		令和2年度末	7人	3.5
	目標値 (令和6年度末)	年間延べ200人	⇒			

① 数値目標達成状況 達成できなかった

達成状況の要因分析、今後の方針

- 達成状況の要因分析
新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う移動制限等により、従前行っていた大学等への新規就業者獲得に向けた一次産業体験事業のPR活動を行うことができなかった。
- 今後の方針
大学等へのPR活動の他、あらゆる媒体を利用し新規就業者の獲得に向けた一次産業体験事業の周知を図り、受入農家とのマッチングを進める。

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

ノウハウの内容	受入農家の情報や町内で新規就農した場合の支援策に加えて、町のPRを積極的に行う。
ノウハウの活用状況・活用方針	相談体制の充実を図るとともに、受入農家や他事業との連携を図り効果的なPRを行う。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

--	--

④ 事業成果

平成30年度から一次産業活動拠点施設の本格的な運営を開始し、新たな一次産業体験者を受け入れ新規就業者の獲得につなげるため、関西圏の大学等へのPR活動を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の拡大による移動制限等により、利用者が思うように伸びず目標達成ができなかった。

内部評価結果

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で参加者が減少し、実績が目標値を下回っている。今後、大学等へのPR活動の他、様々な媒体を利用して周知を図り、受入農家とのマッチングを進めるなどによりKPIの達成を目指していくことが重要

外部評価の結果

京都など県外の比較的近いところにも1次産業に接している学校がある。今までに声をかけていないのであれば、そういったところにPRしていくことも考えられる
--

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-⑥	課 名	社会教育課
------	-----	-----	-------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑥スポーツ・教育合宿推進事業		
予算事業名	(臨時)総合運動公園管理運営事業		
令和2年度実績額	38,414,998円	令和3年度予算額(6月補正後)	73,659,000円

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>スポーツ・文化体験交流合宿施設の基本設計を行う業者を決定するため、指名型プロポーザル業者選定委員会を開催し、指名した8社のうち参加表明のあった4社から技術提案書の提出及びヒアリングを行った。</p> <p>選定委員会の審査の結果、最優秀者「ジオグラフィック・デザイン・ラボ(大阪市)」と基本設計契約を締結し、合宿施設の基本的方針等について設計を行った。</p>	<p>基本設計に基づき、建設予定地の測量、実施設計(地盤調査含む)を行う。</p> <p>実施設計では、合宿旅行取扱業者や京阪神の大学や高校にヒアリングを行い、繁忙期以外での合宿利用ができる施設のありかたを検討し、設計に投入することを行う。</p>	/



評 価 (Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	合宿所利用者数		現 状	KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	年間延べ5,592人		
	目標値 (令和6年度末)	年間延べ8,000人	⇒ 令和2年度末	年間延べ819人 10.2%

① 数値目標達成状況 達成できなかった

達成状況の要因分析、今後の方針

令和2年から全国にまん延した新型コロナウイルス感染症により、おい町総合運動公園施設の閉鎖や、最多の利用者となっている近畿圏が緊急事態宣言区域やまん延防止等重点措置地域となり、学校の合宿や都道府県を越える移動が制限されたことから、長期休暇期間のほとんどの利用がキャンセルとなった。

ワクチン接種等により全国的な感染が下火となり、利用再開となる時に、利用中止となり離れていった利用者に対して他の施設にはない利用しやすい、感動を与えることができる施設となるよう実施設計を進めていく。

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

<p>ノウハウの内容</p>	<p>旅館業法の改正より都市部での新しい形の簡易宿泊所が広がっていることから、民間の施設ノウハウを調査しながら利用者側の気持ちに添った設計が進められた。また、今後も発生すると考えられる感染症防止に対する知見に対応した施設設計を進めることができた。</p>
<p>ノウハウの活用状況・活用方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設管理者の管理手間を押さえる工夫を取り入れた実施設計 ・感染症対策に適合した設備の配置 ・利用者側の視点に立った利用することが楽しくなる意匠を盛り込んだ設計

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

<p>前年度の内部評価・外部評価の事業への反映</p>

④ 事業成果

令和2年から全国にまん延した新型コロナウイルス感染症により、各施設では感染症対策が必須となっている。今後、ワクチン接種等により新型コロナウイルス感染症が下火となった時に、利用者の視点に立った安全・安心な施設として、近畿圏の学校合宿だけでなく新たな利用者呼び込むことができる施設として設計を進めることができた。令和6年の開業時には目標値を超える利用者の確保ができるよう、設計を進めて行く。

内部評価結果

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、施設の閉鎖や都道府県を越える移動が制限され、長期休暇期間のほとんどの利用がキャンセルとなるなどの影響で実績が目標値を下回っている。
- ・新型コロナウイルス感染症の終息を見据え、多くの利用者呼び込むための魅力的な施設を整備していくことが重要

外部評価の結果

<p>外部評価の結果</p>

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-⑥	課名	商工観光課
------	-----	----	-------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑥スポーツ・教育合宿推進事業		
予算事業名	観光振興対策事業(合宿補助)		

令和2年度実績額	840,750円	令和2年度予算額	861,000円
----------	----------	----------	----------

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行った。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円/人泊 地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 利用実績</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円×493人泊 地域交流費:250円×93人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×78人泊</p>	<p>引き続き、将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行う。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円/人泊 地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 予算枠</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円×3,000人泊 地域交流費:250円×200人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×100人泊</p>	

(PRチラシ)



(総合運動公園球技場)



(ホテル流星館)

評価(Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	事業利用者数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	年間延べ4,084人泊		令和2年度末	年間延べ571人泊	10.4
	目標値 (令和6年度末)	年間延べ5,500人泊				

① 数値目標達成状況 達成できなかった

達成状況の要因分析、今後の方針

令和2年度においては、数値目標である年間の事業利用者数が、前年度実績の3,192人泊から82.1%減少し571人泊となったため、目標を達成することはできなかった。

新型コロナウイルス感染症の影響で、合宿施設を一時閉館したことなどにより、7月までは利用者が全くなく、8月以降においても夏休み期間の短縮や全国的にスポーツ大会が中止されたことなどにより、利用者数の回復には至らなかった。

今後においては、施設における感染症対策を徹底することにより、コロナ禍にあっても利用者に安心・安全の合宿環境が提供できるよう、施設管理者と連携して取り組む。

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

<p>ノウハウの内容</p>	<p>部活動やサークル活動を行う団体では、コロナ禍にあっても定期的に合宿や大きな大会を事業計画に盛り込んでおり、潜在的な需要はあると考えられる。 しかし、学校や上位団体からの活動自粛要請に従うケースが多いことから、施設での感染防止対策を図り、安心・安全をアピールすることが重要である。</p>
<p>ノウハウの活用状況・活用方針</p>	<p>引き続き、受入れ施設での感染防止対策を徹底し、合宿中の安全確保を図りながら、ウイズコロナやアフターコロナの利用者獲得に向けた周知に努める。</p>

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

<p> </p>

④ 事業成果

<p>新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、スポーツ大会の中止や活動自粛が相次ぎ、合宿施設の利用が大きく減少したことから、目標の事業利用者数を達成することができなかった。 そのような中、宿泊体験や食事の提供を通して、本町の自然環境や町内産の食材などをPRすることができた。</p>
--

内部評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響によるスポーツ大会の中止や活動自粛が相次ぎ、実績が目標値を下回っている ・新型コロナウイルスの終息を見据えて、利用者獲得に向けたPRを強化していくとともに、利用者に向けて町を魅力を積極的にPRしていくことが重要


外部評価の結果

<p>—</p>

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-⑦	課名	住民窓口課
------	-----	----	-------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑦若者出会い交流応援事業		
予算事業名	若者出会い交流応援事業		
令和2年度実績額	624,487円	令和3年度予算額(6月補正後)	1,021,000円

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要 (実績)	<p>出会い交流事業の一環として 頭巾山青少年旅行村にオープンしたグラウンドゴルフ場で、男女グループに分かれて競技を行った後、よざえもんcaféで食事をしながらの交流会を行った。(男性8名・女性8名参加)</p> <p>民間で開催するカップリング交流パーティーの開催にあたり、事業費の一部を補助(1回目:男性8名・女性8名参加)(2回目:男性9名・女性9名参加)</p>	<p>結婚セミナーを実施した後、大島のオートキャンプ場において、BBQを行い、食事をしながら男女間の交流を図る。</p> <p>居酒屋で夕食会を開催し、食事会を通じて男女間の交流を図る。</p> <p>民間で開催するカップリング交流会に対し、開催費の一部を助成する。</p>	/
			

評価(Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	参加者数			現 状	KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計127人	⇒	令和2年度末	56.5
	目標値 (令和6年度末)	累計340人			

① 数値目標達成状況	達成できなかった
達成状況の要因分析、今後の方針	
<p>行政主体の事業と、民間団体等による魅力的な企画立案事業を組合せ取り組んできたが、参加人数が伸び悩んだことが大きな要因であると考えられる。令和2年度は補助金申請団体があったが、行政主体の事業においてコロナ感染拡大防止の観点から、当初2回開催予定のイベントが1回しか開催することができなかつたため、事業規模が縮小してしまった。</p> <p>今後は、事業に参加したくなるような魅力的な企画に努めるとともに、コロナ感染対策を十分に行ったうえでのイベントの開催を模索、また補助金申請団体のさらなる掘り起こしに取り組み実績確保に努めていく。</p>	

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

<p>ノウハウの内容</p>	<p>行政主体事業のみでは、参加対象や交流場所が町内等狭域に限定されてしまうことで、どうしても敬遠がちな傾向となるため、より広域的な男女の出会いの場を提供していただく観点から、民間団体への補助事業を設置。</p>
<p>ノウハウの活用状況・活用方針</p>	<p>平成28年度から、「おい町若者出会い・交流応援事業実施要綱」を策定し、1事業につき30万円の上限額として、若者の出会いの場を積極的に創出するイベントの実施団体に対する事業を実施。令和2年度は2団体の実績あり。</p>

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

<p>前年度の内部評価・外部評価の事業への反映</p>

④ 事業成果

<p>出会い交流事業の一環として 頭巾山青少年旅行村にオープンしたグランドゴルフ場で、男女グループに分かれて競技を行った後、よざえもんcaféで食事をしながらの交流会を行った(男性8名・女性8名参加)。イベント終了後、3組が連絡交換に至った。</p> <p>民間で開催するカップリング交流パーティーの開催にあたり、事業費の一部を補助(1回目:男性8名・女性8名参加)(2回目:男性9名・女性9名参加)</p>
--

内部評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2回の開催予定だったイベントが1回になるなど、事業規模が縮小した結果、実績が目標値を下回っている ・一方で、町主体のイベントでは3組が連絡交換に至っており、効果が出ている部分もあるため、魅力的なイベントを企画するなど参加人数を増やすための取組が重要

外部評価の結果



<p>コロナ禍で難しい面もあると思うが、若者たちの意見も取り入れながら、若者たちが集う企画やイベントなどに継続的に取り組んでもらいたい</p>

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-⑧	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	特色ある地域づくりの推進		
戦略事業名	⑧まちづくり団体・集落ぐるみチャレンジ応援事業		
予算事業名	まちづくり団体支援事業		

令和2年度実績額	392,506円	令和3年度予算額(6月補正後)	3,502,000円
----------	----------	-----------------	------------

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>平成29年度から本格的なまちづくり活動に繋げるための入り口として、①「まちづくりチャレンジ事業」を制度化。</p> <p>平成23年度にスタートした②「元気なまちづくり支援事業」については、既存団体の支援が終わり次第廃止することが決定しているが、令和2年度から新たに③「まちづくり支援採択事業」を制度化し、「元気なまちづくり支援事業」からの移行も可能とした。</p> <p>【実績】 まちづくりチャレンジ…1団体(新規) まちづくり支援採択…1団体(元気なまちづくり支援事業より移行) ※元気なまちづくり支援事業を活用している4団体は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動を中止した。</p>	<p>住民が主体的となり創意工夫を凝らしたまちづくりにチャレンジする団体を下記の補助制度にて積極的に支援する。</p> <p>【R3実施予定団体数/予算】</p> <p>①元気なまちづくり支援事業 4団体/1,700千円</p> <p>②まちづくりチャレンジ事業 3団体/300千円</p> <p>③まちづくり支援採択事業 5団体/1,500千円</p>	/
	 <p>(新)暦と星で楽しみ隊(まちづくりチャレンジ事業)</p>	 <p>おいビーチクラブ(まちづくり支援採択事業)</p>	

評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	活動団体数			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	累計10団体		令和2年度末	11団体	
	目標値(令和6年度末)	累計15団体	⇒			73.3

① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析、今後の方針

これまでに意欲のある団体が積極的に制度を利用できるよう、補助事業の見直しを行いながら周知を図ってきたことから、累計数としてはおおむねKPIを達成している状況である。

令和2年度は新型コロナの影響を受け大半の既存団体が活動を中止となったが、まちづくりチャレンジ事業を活用して、新たに1件のまちづくり団体の支援を行い、地域の活性化に寄与することができた。

今後も引き続き、新型コロナの影響を受けることが想定されるが、まちの活力を取り戻すため、コロナ対策に創意工夫を凝らしながら、意欲的にまちづくり活動を展開する団体に対して、積極的な支援を行っていきたい。

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

<p>ノウハウの内容</p>	<p>コロナ禍という特殊な状況の中であったが、感染症対策を講じてのイベント実施や、リモートでの講演会開催など、制度を活用する団体のなかでも、事業展開に工夫がみられた。</p>
<p>ノウハウの活用状況・活用方針</p>	<p>感染症対策を講じて活動を実施できた団体の事例をその他の団体にも共有しつつ、コロナ禍においてもまちづくり活動を推進できるように、金銭的な支援以外の部分においてもサポートを行う。</p>

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

<p>（この欄は空欄です）</p>

④ 事業成果

<p>まちづくり団体支援補助金は、町内で行われる町民同士・町民と町外者・移住定住の交流促進を目的とした活動に対する支援制度である。現時点で3つの補助制度を設けているが、これまでに補助制度自体の見直しも行いつつ、住民がよりまちづくり活動にチャレンジしやすい環境を醸成してきた。</p> <p>なお、令和2年度は新型コロナウイルスの影響を受けながらも、感染症対策を講じての事業実施など団体活動にも工夫がみられた。また、まちづくりチャレンジ事業補助制度を利用し、新たに始動したまちづくり団体もあり、これまでに活動を支援した団体は累計11団体に及び、町民活動の活性化に寄与することができている。</p>

内部評価結果

<p>事業のPRや状況に応じた制度の見直しを図った結果、KPIの達成に向けて順調。今後は、住民の自主的・主体的な取組につながっていくように、支援後のフォローアップに努めていくことが重要</p>
--

外部評価の結果

<p>—</p>

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	3-⑧	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	特色ある地域づくりの推進		
戦略事業名	⑧まちづくり団体・集落ぐるみチャレンジ応援事業		
予算事業名	おい町集落ぐるみ町民指標活動支援事業		

令和2年度実績額	37,555,192円	令和3年度予算額(6月補正後)	39,504,000円
----------	-------------	-----------------	-------------

	令和2年度	令和3年度(予定)	令和4年度
事業の概要(実績)	<p>①野尻区芝桜植栽運動と情報発信のためのオリジナルカレンダーの作成 (野尻区)</p> <p>〈実績〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝桜植栽運動はコロナ禍を配慮し、2日間に分けて実施。総数65名参加。 ・今回の事業では若い初参加の方が多く、地区活動に対しての理解を深めてもらうことができた。 ・ふるさとカレンダー作成では、子供会、青年団、壮年団の伝統行事や、活動記録を中心に作成。地区外居住者(地区出身者)にも配布。 	<p>①野尻区入口休耕田を積極的に利用したコスモスの栽培(野尻区)</p> <p>②虫送り・松明行事映像記録活動(岡田区)</p> <p>③バスステーション周辺景観整備事業(河村区)</p> <p>〈予定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ①休耕田にコスモスを栽培し、野尻の新しい観賞スポットを作る。 ②伝統行事である虫送り・松明の行事を映像に記録し、活性化・継承に繋げていく。 ③バスステーション脇の簡易的な花壇をレンガ花壇へと進化させ、交流促進、区民の連帯感醸成を図る。 	/



芝桜植栽運動



オリジナルカレンダー作成

評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	チャレンジ件数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	累計13件		令和2年度末	累計15件	
	目標値(令和6年度末)	累計35件		42.9		

① 数値目標達成状況 達成できなかった

達成状況の要因分析、今後の方針

- 達成状況の要因分析
新型コロナウイルス感染症などの影響により、参加集落数が思うように伸びていない。
- 今後の方針
本事業において、町内外との交流や情報発信は町の活性化につながる重要な取り組みであるので、チャレンジ事業未参加の集落へは積極的に参加を呼び掛けていく。

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

ノウハウの内容	芝桜植栽活動では、若い世代の参加者が増えたことにより地区活動の活性化に繋がった。カレンダー作成には野尻区の伝統行事や青年団活動などを取り入れることで継承意識が養われた。
ノウハウの活用状況・活用方針	若い世代の参加は区の活性化のみならず、町の活性化に必要不可欠であるため、気軽に参加できるチャレンジ事業の取組みを考えていく必要がある。今後も継続して各区にチャレンジ事業参加を呼び掛けていく。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

--	--

④ 事業成果

新型コロナウイルス感染症の影響などにより、令和2年度のチャレンジ事業への参加集落が1件と落ち込んだが、実施内容としては、若年・壮年層の初参加者が多く、地区活動への理解を深めてもらうことができ、幅広い世代間の交流により、活動人口の輪を広げ、区の活性化に繋がった。
--

内部評価結果

<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症の影響などにより、参加集落数が想定よりも伸び悩んでおり、実績が目標値を下回っている・町の活性化につながる重要な取り組みなので、応募しやすい枠組みを検討するとともに、これまでチャレンジ事業に参加したことがない集落に対して積極的に呼び掛けていく必要がある

外部評価の結果

既存のものをカスタマイズするというやり方で対応できることもあるかと思う。例えば、顔を合わせずにできるような新しい取組など、少し工夫してコロナの中でもやれそうなことをイメージし呼び掛けていくことも重要
